

バイオエンジニアリング国際教育研究センター

大学院医学系研究科・医学部 分子病態学／島岡 要（教授）

「環境配慮」に関して医学研究科は工学系研究科や生物資源学研究科と協力し、専門性の垣根を越えて学際的・国際的コラボレーションでイノベーションをサポートするための新たなプラットフォーム構築に取り組んでいます。その一例として本年度4月に設立された『バイオエンジニアリング国際教育研究センター』について紹介します。

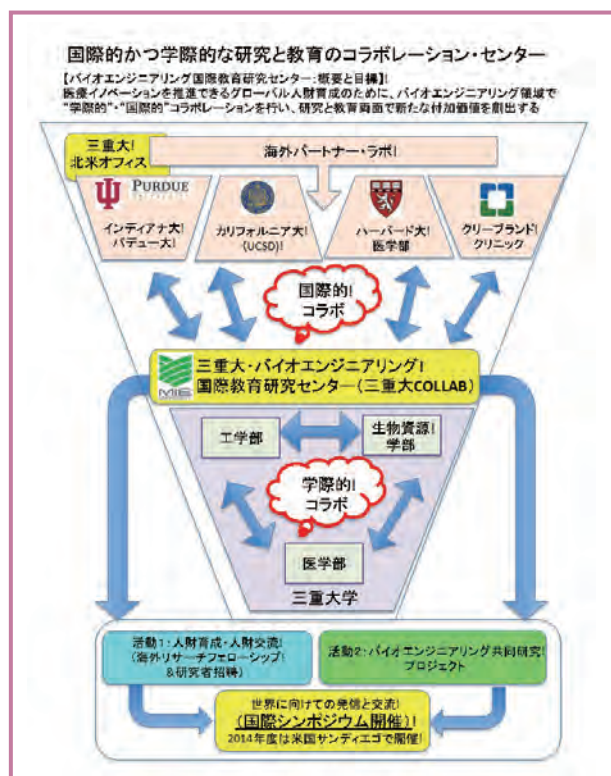
環境への配慮と経済成長を両立させながら人類の健康を増進するためには、医療イノベーションをおこし、新規の付加価値を創出する必要があります。イノベーションは一般には技術革新と邦訳されます。しかし、この言葉の生みの親であるオーストリアの経済学者ヨゼフ・シュンペーターによれば、イノベーションの語源は「新しい組み合わせ」であり、必ずしも技術革新や新発見・発明を意味しません。従ってイノベーションを起こすためには、医学・生物学・工学の異なるディシプリンという垣根を越えた“学際的コラボレーション”と地域での連携を活かしつつ国境という垣根を越えた“国際的コラボレーション”、を同時進行で行うことがそれぞれの専門性・強みの間でのシナジーを生み、数多くの「新しい組み合わせ」に取り組むことが効果的なアプローチであると考えます。このような学際的コラボレーションが必要とされる学問領域として近年注目されているものの一つが医学・生物学・工学をカバーするバイオエンジニアリングです。三重大バイオエンジニアリング国際教育研究センターでは“学部というディシプリンの壁”と“国境という国家・文化の壁”を越えたクロスオーバーな共同研究と人材育成・教育を行います。



バイオエンジニアリング国際シンポジウム準備会議

医学・工学部・生物資源学の3つの研究科・部局が連携しバイオエンジニアリングの分野で学際的レベルの研究と教育を推進するため、海外パートナーであるカリフォルニア大サンディエゴ校、インディアナ大学・パデュー大学インディアナポリス、ハーバード大学フォーサイス研究所と多角的な人材交流と共同研究を推し進めます。このミッションを達成するためにセンターの活動は(1) バイオエンジニアリング共同研究プロジェクトの立ち上げと遂行(2) 人材育成のためのパートナー・ラボへの海外リサーチフェローシップと研究者招聘(3) 成果の世界へ発信のための国際シンポジウムの開催の3つの柱からなります。

本年8月には本学と同様に全米屈指のエコ・フレンドリーなキャンパスを誇るカリフォルニア大サンディエゴ校と協賛し、バイオエンジニアリング国際シンポジウムをサンディエゴで開催します。シンポジウムにはセンターのメンバーや三重大の学生と海外パートナー大学の教授陣や学生に加え、内田学長や朴副学長も参加されます。このシンポジウムをきっかけにさらに学際的・国際的コラボレーションを加速させていき、エコ・コンシャスなバイオエンジニアリング研究と人材育成を推進する計画です。



バイオエンジニアリング国際教育研究センターの体制と学際的・国際的コラボレーションを促進するための仕組み